

革命的家庭で誕生した金日成主席

ロシア極東地域金日成・金正日主義研究会サハリン地域支部会長
トリシン

金日成主席の全生涯は、祖国と人民のために献身した愛国者の一生でした。

金日成主席は、幼年時代から愛国的で革命的な教育を受けました。

金日成主席の一家は、みんな朝鮮の自主権と独立、人民の自由と幸福のために、そして外来侵略者に反対してたたかった熱烈な愛国者、革命家、勇敢な先駆者でした。

金日成主席の曾祖父である金膺禹先生は、アメリカの侵略船シャーマン号を撃沈させる闘争と軍艦シナンドア一号の攻撃を撃退するための闘争を導きました。

祖父である金輔鉉先生と祖母である李宝益先生は、子孫を革命の道に立たせたばかりでなく、革命闘争を積極的に援助し、不屈の革命精神をもって日本帝国主義者に立ち向かいました。

父である金亨稷先生は、朝鮮の反日民族解放運動の指導者であり、祖国の独立と人民の解放と自由のための偉業に一生をささげました。先生は「志遠」の思想を一生の座右の銘とし、早くから革命の壮途につきました。

金亨稷先生は、1917年3月23日に反日地下革命組織である朝鮮国民会を結成しました。朝鮮国民会は当時、朝鮮の愛国者が国内外で結成したすべての団体の中で規模が一番大きい組織でした。この組織は反帝自主的立場がもっとも透徹であり、大衆的基盤も強固でした。

金亨稷先生は、1919年3.1人民蜂起後、急変する情勢の要求に即して朝鮮人民の反日民族解放運動を、民族主義運動から共産主義運動へと方向を転換する上で先駆者の役割を果たしました。

金亨稷先生は、武装闘争を発起し、生涯の最後の日まで武装隊伍を統合し、反日愛国勢力の統一を成し遂げるために献身的な努力を傾けました。

母である康盤石女史は、朝鮮女性運動の指導者でした。康盤石女史は、朝鮮革命の勝利と女性たちの社会的解放のために一生を捧げました。康盤石女史は朝鮮で女性たちの最初の大衆的革命組織である反日婦女会を結成し、国の独立と女性たちの社会的解放のための積極的な闘争を展開しました。康盤石女史は、生活上の困難さと日本警察の迫害が続く条件でも、金亨稷先生と金日成主席の革命活動を助けるためにすべてを尽くしました。

金日成主席の叔父である金亨権同志と弟である金哲柱同志も、早くから日本侵略者に反対する闘争の壮途につき、屈することなく戦った革命闘士でした。

外祖父である康敦煜先生と外叔父である康晋錫先生も、朝鮮の真の反日愛国闘士でした。

金日成主席の家庭は、平凡な家庭でした。一家はみんな勤勉かつ素朴であり、高尚な品性を保っていました。一家は代々に小作暮らしをしながら貧しく暮らしましたが、つねに誠実で勤勉な労働で生活を営みました。金はなくても生きられるが、人徳がなければ生きていけないものだというのが家庭の哲学でした。一家はみんな人徳を重んじ、隣人を心から援助しました。

金日成主席の革命的な家庭は、金日成主席の革命思想が芽生え、偉人の品格をそなえるようにした土壌でした。父母の革命的影響と真理にたいする粘り強い探求、当時の社会的矛盾にたいする直接的体験、日本帝国主義に反対する革命闘争の実践、これらすべては金日成主席をして革命家の品格をそなえる上で助けとなりました。

金日成主席は次のように述べています。

「わたしは幼いとき、父母から愛国主義的教育と革命的影響を受け、真理を探究する過程で、そして不公平で矛盾にみちた社会現象を目撃する過程で、しいたげられる人民に同情を寄せ、かれらを抑圧し搾取する帝国主義者と地主、資本家階級を憎悪するようになり、人民の解放と自由のために一生をささげてたたく決意をかためようになりました」

金日成主席は、幼年時代から父母から、美しい祖国の山河と5千年の歴史をもった朝鮮民族の知恵と勇敢さ、封建支配層と外来侵略者に反対してたたかった人民と愛国名将の偉勲、世界文化の宝庫に寄与した誇り高い民族文化、朝鮮を占領した日本帝国主義の野獣じみた植民地統治と朝鮮人にたいする民族的蔑視、地主と資本家のむごい搾取にたいする話を聞きました。そのようにして金日成主席の心の中では祖国と民族にたいする愛と敵にたいする燃えるような憎悪心が芽生えるようになりました。

金日成主席は、朝鮮人はつねに民族精神を体して自力で国を解放し、人民の新世界を建設しなければならないと言った金亨稷先生の言葉を肝に銘じました。

このような革命的家庭で誕生したので、金日成主席は、人類の自主偉業に大きな業績を積み上げた革命家として、世界の進歩的人民の心の中に永生しているのです。